

琉球大学学術リポジトリ

[巻頭言] 試験研究をめぐる最近の動向

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小那覇, 安優 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015465

巻 頭 言

－ 試験研究をめぐる最近の動向－

副会長 小那覇 安 優

我が国の農業は、UR農業合意等を背景とした国際化が進むなかで、国内的には過疎化の進展、価格支持政策や農業補助に対する国民的批判等、かつて経験したことのない厳しい施策展開が求められている。

そのなかにあって、国が示す農林水産研究基本目標は、「生産現場に直結した新技術の開発」と、それを支える基礎的・先導的研究を最重点課題として位置づけている。

行政施策としては、農業キーテクノロジー等確立実証モデル事業が発足し、我が国農業の持続的発展を図るために今世紀中に到達すべき生産性向上と、担い手が夢と可能性を持てる革新的技術の早急な普及・定着を打ち出している。

一方、県内に目を向けて見ると、国際都市形成構想に基づく基本計画のなかでは、〈平和協力〉〈技術協力〉〈経済・文化交流〉を基本方針として掲げ、そのなかの技術協力は、本県に蓄積されている技術・ノウハウを活用し、アジア太平洋諸国への協力を展開するもので、その拠点となる研究機関の設置を要求している。これについては、沖縄特別振興対策調整費のなかで、亜熱帯総合研究所（仮称）整備構想検討会が発足し、農業分野の研究所設置に向けた基本調査が具体化しつつある。

また、行政施策としては、沖縄ブランド創設支援調査事業費が計上されている。具体的には、沖縄ブランド創設支援のブランドデザインと戦略品目別の基礎調査である。ここでの戦略品目は亜熱帯園芸産品、さとうきび製糖副産物資源化、亜熱帯水産物である。

このような国・県の施策展開には、技術開発現場の役割を基本にしている。このことから、新たに展開する技術ニーズを的確に把握し、時代の流れを先取りした研究計画を構築する必要がある。ここでの、キーワードは、「農業現場に直結した技術開発」であり、それを支える基礎的・先導的技術の開発である。沖縄農業研究会は、県内研究者・技術者が幅広く参画していることから、組織として、これらの問題に対処したプロジェクト研究の構築を期待しているところである。